

ID教育の観点からの日本のプレFDの課題と改善案

2014年9月 日本教育工学会 第30回全国大会

- プレFD: 大学院生を対象としたFD (Faculty Development)
- 日本のプレFDの履修内容の例
- 日本のプレFDで扱われるIDとデリバリの内容と履修時間
- 海外は？
 - アメリカ: PFF
 - オランダ: BKO コンピテンシーとコース
- プレFDにおけるID教育の観点からの日本とオランダの比較
- 改善案

ファカルティ・ディベロップメント(FD)

- 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。
- その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
- 「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」(平成17年9月5日中央教育審議会答申)を受けて、大学院設置基準において義務化(平成19年4月1日より施行)。

以上 文科省のウェブサイトより

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm

プレFD

- 大学教員を志望する大学院生を対象とした大学教員に必要な知識やスキルを身につけさせるための取り組み
- 北大・東北大・東大・名大・京大・広大・立命館などが実施(1999年くらいから)
- 期間 1日以内から3年まで様々, 授業としてやっているところもある
- 形式 講義、ワークショップ、グループディスカッションなど大学によって様々
- 内容 [日本のプレFDの履修内容の例](#)



日本のプレFDの履修内容の例

- 大学教員に必要な知識と技能全般の修得
- ティーチングスキルとライティングスキルの修得
- 実際に授業を担当し、それを改善していく授業研究
- 教授技法の知識, 英語プレゼン力, 海外研修
- 授業設計と教授技法を学ぶ
- 大学教育の課題の共有と教員としての自己形成
- 教授技法の実習と大学教育の課題を共有

日本のプレFDで扱われるIDとデリバリの内容と履修時間

	内容			時間		
	概要	ID	デリバリ	期間	IDにかける時間	デリバリにかける時間
A	教育デザインとデリバリについて、網羅的に教えるカリキュラム。前後にワークショップ。	シラバス作成, クラスデザイン, 評価基準作成, 授業設計の説明と実習	模擬授業の計画・実施・改善	2コマ×7日(21時間)	8コマ(12時間)	6コマ(9時間)
B	ミニ講義を聞いて, そのテーマでディスカッション。ポディーワーク。		ミニ講義+議論	1日(10:00-18:30)		2時間程度か
C	模擬公開授業を行い, その内容について検討する。デリバリ改善型。		模擬授業+議論	1日(10:00-18:30)		1日(10:00-18:30)
D	学部生向け講義を参加者が担当あるいは, 他の参加者の授業を参観。事前事後検討会。		講義担当+参観+検討会	1学期		1学期
E	大学院科目として, 3年間かけて, 徹底的に授業研究を行う。相互研修型。科目としての教員養成科目の改善と, プレFDの混在。		講義担当+参観+検討会	3年		3年
F	外国人講師による英語でのプレFD。ティーチングスキル(シラバス作成 or 評価基準作成)と研究スキル(ライティング or プレゼン)の実習。	シラバス作成 or 評価基準作成の実習		3コマ×5日(22.5時間)	3コマ(4.5時間)	
G	シラバス作成・マイクロティーチング・授業参観・模擬授業・海外合宿にて, アメリカの高等教育事情を学ぶ。演習ののち, その内容について議論。	授業デザインとシラバス作成のワークショップ	マイクロティーチング, 授業参観・模擬授業	4日+海外研修1週間	1日(時間は不明。最大で6時間程度か)	2日(時間は不明。最大で12時間程度か)
H	一般教養型プレFD。大学教員にとって必要な情報を網羅的に扱う内容。	授業の設計, 学習成果の評価の説明	教授法の基礎	5コマ×3日(22.5時間:2単位)	2コマ(3時間)	2コマ(3時間)
I	ティーチングフェローのための必須科目。大学教員としての一般教養を教える内容。	シラバス作成の説明, ワークショップ, 改善とLMSの活用		3日で11コマ	4コマ(6時間)	

©2014 平岡齊王

先進機構eラーニング授業設計支援室
ランチオンセミナー

アメリカ:

Preparing Future Faculty (PFF) Program

- 1993-2002に実施: 300以上の大学とカレッジ
- 教育、研究、サービスなどについての教員の役割と責任を学ぶ
- 参加大学の連合体(クラスター)の中で、学生が相互にインターン的に学ぶ
- 教育・サービス活動についてのメンター(複数)がつく

オランダのBKOのコンピテンシー例 (アイントホーフエン工科大)

- (1) Developing teaching
- (2) Implementing teaching (Carrying out the teaching activities)
- (3) Testing and assessment
- (4) Organizing and coordinating teaching
- (5) Evaluating teaching
- (6) Professionalization

BKO: オランダでの教員の基礎的能力の判断基準である

“University Teaching Qualification (Basis Kwalificatie Onderwijs‘ or BKO)”
2010年より15の公立大学の新任教員は就職, 昇進, テニュアトラック獲得の前に
修了することが要求されている。

BKOコースの例 (アイントホーフエン工科大)

- Introduction course (25 hours)
 - Teaching and learning in higher education
- Developing teaching methods (8 hours)
 - Course design (8 hours)
- Teaching (31 hours)
 - Activating teaching methods (6 hours),
 - Voice training (8 hours)
 - Using technology in teaching (7 hours)
 - Supervising Master students (10 hours) or
 - supervising PhD students (10 hours)
- Testing (6 to 12 hours)
 - Assessment using exams (6 hours) and/or
 - Other types of assessment (6 hours)
- Evaluating education (6 hours)
- Optional courses (8 to 14 hours)

BKOコース 90時間＋
Practical Component 110時間



プレFDのID教育の特徴(BKOとの比較から)

	日本	オランダ
学習の 対象	<p>ID: 主にシラバスと 評価基準の作成。</p> <p>デリバリ: 主に模擬授業＋ 授業研究</p>	<p>IDとデリバリの 両方が必須事 項。</p>
かける 時間	<p>ID: 3－12時間程度</p> <p>デリバリ: 2時間－3年</p>	<p>全体で200時 間程度</p>



オランダではIDとデリバリの両方が重視されているのに対し、日本のプレFDでは「授業内容・方法の改善」の方法として、IDよりもデリバリの比重が高い(ID教育がない場合がある)

カナダの大学のFD担当者「ワークショップでは授業デザインと教育実践の2点に焦点が当てられている」(鈴木,2009)



「IDとデリバリは授業改善のための両輪」



ID教育の観点からの改善案

時間が限られたプレFDでのID教育を推進するために、IDの基本を学び、IDのユーザーになる(=IDの研究知見を自分の実践に活用できる)

方法:

教員としての一般教養を得るためのプレFDに加えて、IDの独学教材などでの学習+IDの専門家による演習を用いて、短期間でのIDの修熟を図る。

